

栃木県大田原市における MIM の取り組み

I 大田原市における教育環境・状況

1 大田原市における基礎情報（平成 26 年 5 月 1 日現在、人口を除く）

- (1) 人口 75,528 名
- (2) 学校数 市立小学校 20 校，市立中学校 9 校，
市立小学校分校 1 校，市立中学校分校 1 校(情緒障害児短期治療施設付属)
- (3) 児童・生徒数 小学校 3,682 名，中学校 2,031 名
- (4) 通級指導教室および特別支援学級の設置状況

① 小学校

通級指導教室

言語障害 1 校，1 教室，55 名

自閉症・情緒障害等 2 校，2 教室，41 名

特別支援学級

知的障害 11 校，14 学級，71 名

自閉症・情緒障害 11 校，14 学級，64 名

② 中学校

特別支援学級

知的障害 7 校，8 学級，36 名

自閉症・情緒障害 4 校，6 学級，33 名

- (5) 特別支援学校の設置状況：なし

2 大田原市における発達障害関連の施策

- (1) 文部科学省の委託事業

「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」

(市内通称：大田原市学習障害等支援事業)

実施期間：平成 26 年度～27 年度

概要：

- ア 全小学校低学年での MIM による指導・アセスメント・支援の実施
- イ 全小中学校でのユニバーサル・デザインの授業づくりの推進
- ウ 発達障害支援アドバイザーの学校訪問による助言
- エ 通級指導支援員(特別支援学級経験の豊富な教職員退職者)の配置による通級指導教室と通常の学級との連携推進
- オ WISC-IV の活用に関する言語聴覚士，心理士，教職員の合同研修
- カ ICT を活用した学習支援

- (2) 県の委託事業：なし

(3) 市独自の事業（文部科学省委託事業の後継事業）

「大田原市早期総合発達支援事業」

実施期間：

- ・平成 19 年度～21 年度（文部科学省モデル事業）
- ・平成 21 年度～現在（市単独事業）

概要：

- ア 協議会の開催（医師，言語聴覚士，心理士を含む関係者）
- イ 幼稚園・保育園・小学校・中学校合同の発達障害に関する研修（講話 年 3 回，事例検討学習 年 2 回）
- ウ 発達障害セミナーの開催（保護者・関係者向け講演会の実施）
- エ 個別の支援移行計画の作成（幼稚園・保育園→小学校，小学校→中学校）
- オ 「のびのびノート」（個別の支援計画）の作成

3 大田原市における学力向上関連の施策

(1) 文部科学省の委託事業：なし

(2) 県の委託事業：なし

(3) 市独自の事業：

①「大田原市基礎学力向上委員会事業」

実施期間：平成 15 年度～現在（市単独事業）

概要：

- ア 基礎学力向上委員(市内小中学校の校長，教頭，学習指導主任の代表者と指導主事)による学力向上策の検討
- イ 国語研究委員・算数研究委員(市内小学校から推薦された教職員)による漢字・計算ドリルの作成
- ウ 国語研究委員・算数研究委員による検定試験の作成
- エ 各小学校でのドリルの使用（朝の学習，授業，家庭学習）
- オ 検定試験の実施（各学年各級を設けての市内統一の検定試験）
- カ 各級認定証の授与

②「土曜学習室事業」

実施期間：平成 15 年 7 月～現在（平成 15 年当時は年間を通して実施）

概要：

- ア 中学校 3 年生を対象
- イ 11 月から 2 月に実施
- ウ 高校受験に向けての学習支援
- エ ボランティア指導者（中学校教員，市臨時教職員，大学生）

③「市指定研究学校事業」

実施期間：不明～現在

概要：

- ア 学習指導研究校 3 校指定

イ 言語力育成研究校 1校指定

④「算数・数学支援助手配置事業」

実施期間：平成14年度～現在

概要：

ア 市内全小中学校全学級の算数・数学の授業を複数体制で行う

イ 県費加配教員等のいない学校に算数・数学支援助手を配置する

ウ TT授業，少人数指導授業，習熟度別授業等を行う

4 発達障害のある子ども等への支援のリソース

(1) 支援員や巡回相談等の人的支援：市臨時職員の配置，巡回相談の実施

① 市臨時職員「学習相談員」の配置

- ・発達障害等を抱える支援の必要な児童生徒の在籍する学級に配置
- ・一日5.5時間，年200日勤務
- ・資格は問わない
- ・68名配置

② 市臨時職員「小一支援助手」の配置

- ・小学校1年生の学級で30人以上の学級に配置
- ・一日5.5時間，年200日勤務
- ・教員免許
- ・8名配置

③ 巡回相談

ア 定期巡回相談

- ・年間3回の訪問。
- ・市カウンセラー，作業療法士，特別支援学校地域担当者，市指導主事で訪問
- ・授業観察と事例検討の実施

イ 随時巡回相談

- ・学校の要請によって行う
- ・内容によって市カウンセラー，作業療法士と市指導主事が訪問

(2) 教材等の提供といった物的支援

特記事項なし

(3) 公的な相談・指導機関

① 就学相談会

臨床心理士，保健師，市指導主事が就学前の検査・相談等を行う

② 随時就学相談

市指導主事が就学前から小中学校在籍児までの相談を行う

(4) その他

市内医療・療育機関との連携

- ・国際医療福祉大学が市内にあり，以下の医療・療育機関があり，市内の多くの発達障害のある子ども等が利用している。医療療育機関，学校関係者によるケース会議等も数多く実施されている。

国際医療福祉リハビリテーションセンター（小児神経科医師，作業療法士，
言語聴覚士）

国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター（言語聴覚士，臨床心理士）

II 大田原市における MIM の取り組み

1 MIM に取り組むことになった経緯

- (1) 就学指導委員会で検討される事例で，小学校高学年で知能検査では平均値内にありながら，学校でのテストでは 10 点程度しかとれないといった事例が増えてきていた。委員会の中では，学習障害と考えられるということから，委員から教育委員会で学習障害へ対応するよう要望があった。
- (2) 平成 22 年度発達障害セミナーで学習障害研究の第一人者でもある大阪医科大学の竹田契一先生を招いたり，啓発活動は行ってきたが，市内全体で取り組む具体的手立てとしては具体化できなかった。
- (3) 平成 24 年度に学習障害等に先進的に取り組んでいる鹿沼市立みなみ小学校に視察見学を行い，MIM も含めた学習障害への取組を知り，大田原市内での取組の検討を始めた。
- (4) 平成 25 年度隣接する那須塩原市の複数の小学校で MIM を取り入れた公開授業研究発表があり，効果があることを知った。実施校関係者に確認したところ，鹿沼市立みなみ小学校校長の原田浩司先生と三澤雅子教諭が那須塩原市内数校で助言されていることを知った。
- (5) 原田浩司先生と三澤雅子先生に MIM の導入法について相談し，平成 25 年度中に市内全小学校分 MIM のパッケージを購入し，「大田原市学習障害等支援事業」という名称で，文部科学省委託事業「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」とも絡めながら，平成 26 年度全小学校実施を決定した。

2 MIM に関する実施計画

- (1) 平成 25 年度 MIM 実施説明会を市内小学校低学年担当者を対象に実施
- (2) 平成 26 年度 市内 20 全校で MIM を実践（分校も入れると 21 校で実践）

3 MIM に関する事業における行政（教育委員会等）の具体的役割

- (1) MIM パッケージ（コピー用紙とパウチフィルムを含む）の購入と配布を行った。（市内全小学校に 1 セット及び通級指導教室に 1 セット）
- (2) MIM を実施するための研修会を年 3 回実施した。
- (3) MIM を効果的に活用してもらうモデル校を「言語力育成研修校」として指定し，発達障害支援アドバイザー（宇都宮大学准教授 原田浩司先生）に 4 回訪問してもらい，効果的活用モデルを作った。
- (4) MIM-PM のデータを 7 月と 12 月末の年 2 回（教職員の負担と市内集計の報告を考慮して）各校に報告してもらい，市内全体のデータをまとめ，市校長会議や研修会

等で成果と今後の方針について示した。

- (5) 第3回の研修会で市内全校の取組状況を紹介してもらうとともに、その資料を報告書に掲載し、他校の取組を知る資料とした。

4 MIMに関する研修

(1) 平成25年度

- ① 回数：1回
- ② 内容：「MIMを用いた読み書き学習の支援方法の概要について」
- ③ 時期：平成26年2月21日(金)
- ④ 講師：栃木県総合教育センター研修部 副主幹 三澤雅子 先生
- ⑤ 対象：各校低学年担当者1名以上
- ⑥ 参加者の感想
 - ・MIMとは何かということについて、少し理解できた。
 - ・学校にMIMはあったが、宿題でプリントを活用する程度だったので、今回、効果的な活用の仕方を聞くことができ、とても参考になった。
 - ・こんなに効果的なものがあることを初めて知った。もう少し勉強して実践してみようと思う。
 - ・校内で伝達する予定だが、より多くの先生に研修に参加し、興味をもってほしい。
 - ・今、担任している子どもたちにもやってあげたかった。
 - ・つまづきがよく見えるアセスメントのやり方がわかり、参考になった。
 - ・教材を見ただけでは、あまり期待できなかったが、本日お話を聞いて目からウロコだった。
 - ・クラスに来年度から知的学級に在籍する児童やグレーゾーンの児童が数名いる。1年担任として通常の学級の中での特別支援についてずっと悩んでいた。MIMについて聞くことができ、大変参考になった。
 - ・具体的な手立てを豊富にご紹介くださり、大変参考になった。本校でも計画を立てていきたいと思った。読解力育成の基盤として大変重要なものだと実感した。
 - ・実際にすぐに実践できそうな指導の仕方やプリントの活用例などをたくさん教えていただき、参考になった。
 - ・現在、担任している学年もまた、学校全体として読みに関しても課題がある。読書など今、実践しているものでない、別の切り口から指導できないかと思っていたので、大変興味深く研修を受けた。
 - ・鹿沼市立みなみ小への視察にも参加させてもらったので、実際に指導法の研修ができてよかった。
 - ・読み書きでつまづいている児童が多くいるので、少しずつ取り入れていきたい。
 - ・読めないという状態に対するアプローチとして体を動かす方法でのアプローチやその効果を確かめる手立てなど、即実行できる内容でよかった。

(2) 平成 26 年度

- ① 回数：3 回
- ② 内容 第 1 回「MIM を用いた読み書き支援 1 st ステージ」
 - ・ 講話及び演習第 2 回「MIM を用いた読み書き支援 2 nd ステージ」
 - ・ 講話第 3 回「MIM を用いた読み書き支援 3 rd ステージ」
 - ・ 講話及び班別協議
- ③ 時期 第 1 回：平成 26 年 4 月 17 日（木）
第 2 回：平成 26 年 8 月 29 日（金）
第 3 回：平成 26 年 12 月 15 日（月）
- ④ 講師 第 1 回：栃木県総合教育センター研修部 副主幹 三澤雅子 先生
第 2 回：国立特別支援教育総合研究所教育支援部
主任研究員 海津亜希子 先生
第 3 回：栃木県総合教育センター研修部 副主幹 三澤雅子 先生
- ⑤ 対象 第 1 回：1 学年担当者を中心
第 2 回：1 学年担当者やその支援にあたる先生
第 3 回：1 年生担当者を中心に関係職員
- ⑥ 参加者の感想
第 1 回：アンケートなし
第 2 回：以下参照

< 1 年 >

- ・ わかりやすい説明だった。
- ・ なぜ MIM なのか、MIM の重要性などよくわかった。さっそく 2 nd ステージの取組について学んだのでやっていきたい。
- ・ 2 nd, 3 rd ステージの具体的な支援策を知ることができてよかった。
- ・ 取り組み始めた MIM について、有益性や 1 st ステージ, 2 nd ステージ, 3 rd ステージ等進め方やねらいがわかってよかった。
- ・ 実際の授業の映像がとてもわかりやすかった。もう一度 MIM パッケージの内容を確認して、有効に活用したい。
- ・ 実際に MIM を実践している学校の実例を知ることができ、とても勉強になった。
- ・ とても分かりやすく、今後 MIM を活用していこうという気持ちになった。
- ・ 子どもたちのつまづきを早い段階で取り除ける手立てを伝えていただいた。
- ・ セットの中で読んだことが実際の講話でよりわかりやすくなった。
- ・ 自分の学級を立て直そうと、構想が固まってきた。(授業の始まり 5 分くらいでやらせるカードを作ろう。能力別の席順を考えてステージごとの指導を強化しよう等々) 良い機会に良い話を聞くことができた。
- ・ 2 nd ステージについて聞いてよかった。CD にしか入っていない教科について初めて知った。早速使ってみようと思う。
- ・ 学習でつまづいてしまうと全てに影響が出てしまうことが良くわかった。しっか

りアセスメントを利用し、個人に合った指導をしたいと思う。

- ・なるほどな、そう思うことばかりだった。日常指導の中で取り入れる大切さを感じた。何げない時間、子どものやる気につながるようがんばりたい。
- ・短時間でできるとはいえ、プリント量（印刷も大変）が多く、教科書の学習だけでも時間が足りないぐらいであり、やや負担感があつたが、これからどんな風に活用していけばよいのか、どんな効果が得られるのかがわかり、苦にならなくなった。
- ・夏休み前に 1st ステージを実践したが、今日の話聞いて個別の配慮計画で再度確認し、再指導しようと思った。2nd ステージ、3rd ステージの話聞いてよかった。
- ・2nd ステージの取り組み方について知ることができた。個に合った指導を行う中で、子どもたちが「わかった」や「楽しかった」と思える授業となるよう心がけていきたいと思う。
- ・手探りのようやくスタートしたばかりなので、まだ教材を全て見ることもできずにいたが、その効果有用性がまた少しわかり、ぜひやらなくてはという気持ちになった。お話もとても分かりやすく、温かく、熱い気持ちを感じた。
- ・今後どのように支援していったらいいのか、方向性が見えてきた。いろいろな支援の方法をお聞きできたので、早速できるところから実践していきたい。
- ・とてもわかりやすく、実践への意欲がわいた。
- ・子どもたちが楽しく取り組んでいる様子がわかった。

<2年>

- ・MIM を活用して子どもたちのニーズに応えていきたいと思った。どの子にも基礎学力を付けたい。
- ・支援が必要な児童に気付くきっかけができた。児童が文字の透明性が低い言葉を学ぶ時は気を付けようと思った。
- ・2nd ステージについて聞いてよかった。
- ・実際に指導している場面を見せていただいたのがよかった。学力の高い子にも有効というのが驚きで、すぐに取り組みたいと感じた。
- ・動作化、視覚化よって流暢性が上がり、学力向上につながるので、今後も力を入れて指導していきたい。
- ・行う方法をたくさん紹介いただき、参考になった。
- ・海津先生の温かい人柄が伝わってきた。子どもたちに「できる」という思いを持たせてあげたいという思いが伝わってきて、私もこれからはしっかり取り組んでいきたいという気持ちになった。MIM に関する指導も大変参考になった。
- ・講師の先生がとても温かい雰囲気、熱意を感じた。子どもが楽しめる授業をやってみようと思った。
- ・MIM がどういうものなのかがわかった。やっていく上で不安なところもあるが、もう一度教材を見返して取り組んでいきたい。
- ・分かっているようで、実は分かっていない子どもたちがいるかもしれないと考えさせられた。基礎を定着させることで、学力の底上げを目指したい。

< 3年 >

- ・実際にアセスメントを実施したが、その後の活用がアセスメント(シート)を何度も行っていくことしか想像がつかなかったが、先生の取り組み方や他校での例を紹介いただき、先が見えてきた。また、改めて読みのアセスメントの有効性を感じることができ、是非今後も取り組んでいきたい。
- ・私のクラスにも促音が抜ける子、長音、拗音が抜ける子がいる。手ばたきなどのやり方を知り、やってみようと思った。3年生だけど、できることをやって力を付けさせたい。

< 4年 >

- ・子どものつまずきに応じて、きめ細かい指導をすると、ぐんぐん正答率が伸びたという例を聞き、大変ためになった。子どものニーズに応じた教材、授業の形態を考えていく大切さもわかった。
- ・LD の子の指導がうまくいかず、なかなか正しい文が書けずに終わってしまった経験がある。今日の講話を聞いて、もっとその子に合った指導法があったのだと思った。いろいろな方法や手立てを知り、大変勉強になった。
- ・MIM について理解が深まった。いろいろな指導・支援をしながら学ぶ楽しさを子どもたちと一緒に味わいたい。
- ・MIM を利用し、子どもたちのつまずき、課題を把握し、個別の支援にあたることの有効性がわかった。本学級にも読むことにつまずきがある子どもがいるので、是非今後の支援に生かしていきたいと思う。

< 5年 >

- ・MIM の具体的な取組について学ぶことができよかった。子どもたちの視点に立て、わかるという実感をもてるような授業を展開していきたい。また、できない子を上げるだけでなく、できる子への対応も工夫しつつ、取り組んでいきたい。
- ・MIM の有効性がよく分かった。
- ・MIM について具体的な話が聞けて、とても勉強になった。学校で取り入れられるものは取り入れ、活用し、子どもの肯定感を高め、学力の向上につなげたい。
- ・MIM のできた経過や活用法など、詳しく教えていただき、とても参考になった。低学年からの MIM の指導が大切なのだと強く感じた。以前低学年を教えていた時に、本当に頭を悩ませたことがあったので、MIM を活用することで解消されると思った。

< 6年 >

- ・今まで見過ごされていた点に目を付けた話であった。参考になった。
- ・MIM を作った海津先生のお話を直接聞かせていただいたことで、よく理解することができた。つまずきをなくすための手立てにより上位層の伸びが大きいことに驚いた。
- ・低学年から MIM に出会えた子どもたちは幸せだなと思った。目の前の6年生の中にも気づけることがありそうだと思います。集計結果を再度見てみたい。歌なども今後参考にしたい。

- ・歌と動きで覚えられるのは面白いと思った。動きもあるので、子どもたちも楽しそうだった。低学年担任時にはやってみたいと思った。

<その他>

- ・だれでも（ベテランも初任者も）「子どものつまずき」を救える授業づくりのための MIM について勉強になった。「楽しく、体を動かして行う授業」「みんながわかる授業」は改めて大切だと思った。
- ・2nd ステージの具体的な指導について教えていただき、ありがたかった。本校では、全校生に MIM のアセスメントを行い、学年に応じた 2nd ステージ指導、3rd ステージ指導を実施していこうと思う。
- ・1st ステージの指導が終わったところで、次のステージでの取組を具体的に聞くことができ、よかった。
- ・とてもわかりやすいお話だった。学校全体でやる、ということも改めて意識することができた。
- ・児童の指導にそのまま生かせるお話を聞かせていただき、大変参考になった。
- ・1st, 2nd, 3rd のやり方がわかった。2nd をしっかりしていくことで 3rd の子が少なくなることから、教師は MIM を使ってしっかり支援していくことの大切さを知った。とても勉強になり、気を引き締めていこうという気持ちを持つことができた。
- ・アセスメントのやり方はわかっていたが、1st, 2nd, 3rd ステージでの指導のポイントが今回の講話で理解することができた。
- ・東京書籍の方より以前いただいたエデュフロントの先生のお話を読み、ぜひ先生のお話をもっと聞きたくて参加した。MIM はすごいと思う。本校でも始めている。子どもたちのために、今後がんばりたい。
- ・初めての研修でまだまだ不明なところがある。まず、1st ステージ→2→3 といった意味が勝手な解釈でいた。支援や学習活動の例示はよくわからないのだが、それと 1, 2, 3 との関連する個に対するどういう支援がいいのか。学びが浅いので、疑問が残っている。興味があるので勉強したい。教材を見たとき、おもしろいと思い、研修に参加した。
- ・海津先生から直接お話を伺い、MIM の指導の良さ、特殊音節の指導(理解)の重要性がよくわかった。子どもたちは土台をしっかり身に付けることができるよう支援していきたい。
- ・1st, 2nd の指導方法や教材活用などについて具体的にお話をいただき、前研修会より理解の幅が広がった。学校体制では全くいっていないが、1, 2 年生へのサポートができたらと思った。
- ・支援が必要な子どもだけでなく、成績が上位の子どもたちをさらに伸ばすというところに感心した。
- ・MIM を用いることで、子どもたちの「つまずき」に気付き、また、そういった子にどのような支援・指導をしていったらよいか明確になるので、貴重なものであると思った。子どもたちに学びの楽しさを与えられるよう今後の指導を考えていきたいと思った。

第3回 講話の感想：以下参照

<1年>

- ・非常にわかりやすかった。可能なら全職員で聞きたい。
- ・MIM の1st ステージの説明もあり、大変わかりやすかった。指導の具体例が示してあり、参考になった。低学年における MIM 指導の重要性を痛感した。
- ・全校で取り組むことが大切なのだとわかった。
- ・まずは、早期発見・確実な支援に努めていきたいと思った。教育課程への位置づけ、6年間を見通した全校体制の取組にまで設定できれば、子どもも教師もやりやすいと思った。
- ・音韻経路、語彙経路の促進が読みの流暢性を高める。3か月は MIM 指導が必要。読み書き困難な子を早期発見が大切。二次支援による働きかけで向上する。確実な支援が必要ということがわかった。
- ・二次支援体制。本校でできる範囲で取り組んでいきたい。
- ・継続することが大切。根気強く、3rd ステージで指導したい。2年生までの読みが大切ということが印象に残った。
- ・2nd ステージだけでなく、最初からのおさらい。そして、今後取り組むべき3rd ステージの具体策がよくわかった。
- ・読みの力をつけることの重要性がよくわかった。予防的、早期発見に努めたいと思った。
- ・特殊音節の指導が児童の読みの力や学力全体を上げ、意欲を高めることがわかった。文字を言葉のまとまりで読めなかったり、行をとばしてしまったりする子には、目でたどることが苦手で、ビジョントレーニングによって、改善される児童がいることがわかった。児童の実態をまだまだ把握分析できていないので、アセスメントを見直し、課題を整理したい。
- ・2nd ステージ、3rd ステージの具体的な取組がわかった。
- ・2nd ステージの指導についての説明があり、大変わかりやすかった。夏休みの前の研修会で聞きたかった。1月からやってみたい。全校での取組はすばらしいが、方法がまだ考えられていない。時間的な確保が必要（朝学での確保）。
- ・現在は1年生と2年生で MIM を取り入れているが、全校生で取り入れることの大切さがわかった。
- ・2nd までの指導は MIM のアセスメントパッケージを見て、なんとなくできたが、3rd の指導の仕方がわかった。
- ・1st ステージから復習も兼ねて説明していただき、改めて気づいた点もあり、ありがたかった。3rd ステージへの方策も教えていただいたので、実際に取り組んでいきたい。
- ・改めて MIM の良さがわかった。いろいろな指導で、2nd ステージの指導の時間が十分には取れていないが、1・2年生のうちに、この指導をしっかりしておけば、上の学年に上がったとき、読みでつまずく子が少なくなっていくことを考えれば、「本校の指導」として位置づけることが大切。そのことを学校に伝えていかなければと思った。

- ・学校体制としての取組ができるよう働きかけをしていきたい。

<2年>

- ・三澤先生のお話は実際に取り組んでいらっしゃった指導なので、わかりやすかった。1stステージは一斉にできるけれど、2ndステージ、3rdステージは学校体制で取り組んでいかななくてはならないので、難しさを感じた。
- ・2ndステージでの支援の方法について、絵カードを中心に進めているところだったので、大変参考になった。ゲームなどを取り入れ、児童の意欲を大切にしながら進めていきたい。

<その他>

- ・MIMによる特殊音節の指導方法はたくさんあるということがわかった。
- ・1年生担任のあるクラスだけでの取組ではなく、6年間のつながりを考えて「本校の指導」として位置づけられるようにしていきたい。来年度4月の授業参観後のPTA全体会で、保護者に説明し、理解してもらいたいと考えている。
- ・2ndステージ、3rdステージの指導方法について、より詳しくわかった。実際指導を積んできた内容や児童の変容を聞くことができ、勉強になった。

②班別協議の感想

<1年>

- ・実際の取組を聞くことができ、とても参考になった。取り入れられるものを早速学校に帰ってから行おうと思う。
- ・各学校の取組がわかって大変参考になった。参考になった点、疑問点3つというまとめ方もよかった。
- ・他の学校での取組がわかり、参考になった。
- ・自分の学校でまだまだやれる良いアイデアを知ることができ、とても良かった。また、課題はどの学校も同じで、全校体制で共通理解し、取り組むことだった。次年度に向けて考えていきたい。
- ・各学校の取組がわかり、参考になった。全校体制での取組が有効。指導体制の確立が必要だと思った。
- ・各学校の取組がわかり、とても良かった。それぞれの成果と課題も交流することができ、大変参考になった。最後の三澤先生のお話の通り取り組めるよう、がんばりたい。
- ・各校の取組状況を直接聞いたり、質問したりできたので良かった。
- ・他校の取組がわかって、参考になった。また、共通の課題があることもわかった。それらに対し、実施可能なアドバイスをいただき、ありがたかった。
- ・他の学校の取組がとても参考になった。すぐに実践できる取組があった。
- ・MIMに取り組む時間について、他の学校の様子があったので、良かった。
- ・他校の現状を知り、少しでも参考にして、実施できそうなことは今年度中にやっていきたいと思った。
- ・他校の取組を参考に今後も取り組んでいきたい。隙間時間をうまく活用していきたい。
- ・ちょっとした時間に行う。意識的に指導するなど、できることから大切である

ということがわかった。

<2年>

- ・いろいろな立場の先生方のグループだったので、様々な立場からの意見を聞くことができた。子どもたちのために積極的に校内で提案していきたい。

<その他>

- ・読み書きスクリーニングによる学習困難者の発見を早期にし、対応していかなければと思った。
- ・MIMを取り入れた研究授業を実施した。アセスメントの後、残った問題を実施している。高学年とのペア学習・早口言葉集のトイレ掲示等々を本校でも実施していきたいと思った。
- ・時間がもっとほしい。
- ・他校の実践の工夫がたくさん聞けて、大変参考になった。

5 MIMに関する事業についての現時点での成果

(1) 教職員の意識の変容

① 視覚科・動作化を入れた授業への児童の反応

絵カードと動作化によって、児童の授業への取組が意欲的になっているという学級担任からの感想が多く寄せられている。

② MIM-PMの実施による読めていない児童の把握

低学年だけでなく、全学年で実施している学校もあり、読めていない児童の存在が明確になり、教員が支援の必要性を実感している。

(2) 特殊音節の定着

小学校1学年担任からは特殊音節の定着が例年より早くなっているとの感想が多く寄せられている。

(3) 学級担任以外の学習支援の取組

MIM-PMの実施により、支援を必要とする児童が明確になり、学級担任以外の教員も参加しての朝の学習や昼の時間の学習支援を始めた学校が出てきている。

(4) アセスメントの位置づけ

MIM-PMの実施により、支援を要する児童の把握ができ、その詳細な課題や背景についてアセスメントしようとする学校が出てきている。今年度は、「小学生の読み書きスクリーニング」(宇野他, 2006, インテルナ出版)や「特異的発達障害診断と治療のための実践ガイドライン」(稲垣編, 2010, 診断と治療社), 「WISC-IV」(日本版 WISC-IV刊行委員会, 2010, 日本文化科学社)を用いて支援方法を検討した学校があった。

6 MIMに関する事業についての現時点での課題

(1) 学校間格差, 学級間格差

MIMの1stステージの段階で、工夫して様々な場面で絵カードや視覚化・動作化を入れている学校・学級がある反面、あまり児童に定着していない学校・学級が見られた。

(2) 2nd ステージの位置づけの差

朝の学習の時間、給食の隙間時間、授業の隙間時間等様々な取組をしている学校が見られるが、ほとんど位置づけられなかった学校も見られる。

(3) 3rd ステージの位置づけ

今年度は1年生担任を中心に研修を実施した。学級担任以外にも特別支援学級担任や教務主任、支援員等様々な職種の教員が研修に参加した学校は、3rd ステージもスムーズに位置づけられた。しかし、学級担任だけで取り組んでいる学校は3rd ステージの位置づけは全くできていない。

(4) MIM 3rd ステージ後の取組について

明らかに学習障害と考えられる児童については、MIM のパッケージだけでは対応ができなかった。今後、ICT 等を活用した支援方法を定着していく必要がある。

7 MIM の事業を進めるにあたって期待すること

- (1) 児童のつまずきの背景を考え、支援を工夫する教員が増えること。
- (2) 学習障害を抱える児童の早期支援が進み、小学校高学年、中学校、高校と意欲をもって学び続けられる学校環境が整えられること。
- (3) 学習障害に関する地域での理解が広がり、様々な支援方法、支援の場が広がっていくこと。

8 MIM への要望

- (1) 算数障害の MIM のパッケージの開発
- (2) 自治体として MIM に先進的に取り組んだ事例（飯塚市）の出版

9 今後 MIM に関する事業を進めようとしている自治体へのアドバイス・メッセージ

(1) 先進地の取組を参考にすること

本市では、指導していただいている三澤先生から福岡県飯塚市の取組を伺い、福岡市教育委員会の方に電話でお話を伺い、資料提供いただいた。その資料をもとに計画を立てたが、この資料がとても良い資料であった。

(2) 実践してきた方に指導を仰ぐこと

本市では、小学校現場で MIM を使った指導をされてきた栃木県総合教育センターの三澤雅子先生に指導いただいたが、実践の中での工夫を紹介いただき、現場の先生には、とても参考になった。

(3) 海津先生の講話

三澤先生から海津先生のお話を1回は聞くとよいとのアドバイスを受け、海津先生をお呼びしてお話をうかがったが、開発された方ならではのポイントがわかり、普及が進んだ。

(4) MIM-PM の結果の報告

本市では、市全体のデータをまとめるため、5月から7月、9月から12月の2期に分けて2回データを報告してもらった。報告しなければならないので、少なくとも

も MIM-PM は実施してもらうことができた。

(5) 学校間の情報交換

第3回の研修会で各学校の実践について班別で意見交換を行ってもらった。本市は小規模校が多いため、他校の取組がとても参考になったようである。

(6) 予想以上の反応

管理職や学習指導主任等、学級担任以外の方の反響が大きかった。学級担任以外の方に知ってもらう機会を作ることで、校内体制が整うと思われる。

(文責：大田原市教育委員会学校教育課・指導主事 矢野 勝昭)